

「ま じ め」

館 長 綱 島 窈

休みの日に私の家に庭師がきた。生けがきの手入れに手伝いがなく、私に手を貸してくれという。竹ざおを杭に打ちつけるところで片端をおさえてくれ、「旦那、まじめにやれよ」という。私は別にいい加減にやっているつもりはない。どうやら庭師のいうのは、ちゃんと印のついたところに竹ざおの端をしっかりとおさえつけておけという意味らしい。「まじめにやれ」というのは精神を集中して一つのことに当ることだとさとした。大学にはいって、「まじめにやれよ」という言葉はだれでも一度はきかされる。遊ばずに勉強せよということと受け取れる。だが、もっと別の意味ではこの庭師のように当面のことに集中せよということにもなる。図書館はその集中の場の一つだと思ってもらいたい。

個々の人間は巨人の肩にのる小人だといった人がいるとのこと。巨人は人間が遠い過去から積み上げた知識文化の集積を指す。その上にの

っかって人類の進歩が成り立つ。書物だけがその集積ではないかも知れない。もっと広い情報の整理がなければ図書館の機能も完全とはいえない。新しい技術が生まれて全世界の人類の英知がたちどころに利用できるようになる。そういう図書館を目指さなければなるまい。そして、そういう図書館で個々の人の集中があって、やっとそこから進歩への糸口が開けてくる。「まじめにやれ、図書館で！」というのあながち我田引水の言葉ではないと思う。

閲覧ニュースのこの号には二つ特別の寄稿をいただいた。一つは長木学長からの小原文庫開設に当ってのお言葉。もう一つはこの三月に定年になられる青木先生のお言葉。教養図書館にとっては何ともありがたいこと、厚く御礼申し上げたいと思う。

53. 3. 18.

開 館 時 間

相模原と白金の学内図書館の開館時間をお知らせします。

- | | |
|---------|--|
| ① 教養図書館 | 9時から6時まで(土曜1時まで)
— 複写受付4時まで(土曜12時まで) — |
| ② 医学図書館 | 9時から7時まで(土曜5時まで) |
| ③ 衛生図書館 | 9時30分から6時まで(土曜3時まで)
— 複写・貸出受付5時30分まで(土曜2時30分まで) — |
| ④ 白金図書館 | 9時から7時まで(土曜5時まで)
— 複写受付6時30分まで(土曜4時30分まで) — |

「小原文庫」の設置にあたって

学長 長 木 大 三

小原國芳先生、苟も我が国の大学について関心を持つ者で、この名も知らぬ人は一人もいないと思います。

明治20年に生れ昭和32年90歳の天寿を全うして長逝されるまでの間、先生が教育界に遺された足跡は余りにも大きい。先生は鹿児島の貧しい家に生れましたが、祖父が寺小屋の師匠であったことを心の頼りとして、幼い頃からひたすら学びと教えの道を志していたということです。習字の紙が勿体なくて、波引き際の砂の上大きく書いた字くばりに目を輝かした幼き日の思い出が、先生の人格の底に、いつまでも息づいていたようです。

私が先生に初めてお会いしたのは、北里大学の設置を企画したときで先生が審議委員の一人として査察に来られたおりでした。白金の本館建物の正面玄関に入り、ゆっくり登り始めた階段途中の踊り場にある北里先生のレリーフ像を眼にされるや先生は静かに合掌されました。その光景を目の当りにした私は、先生に対する敬愛の念を覚えずにはおれませんでした。その後私立大学協会の会合で屢々先生の訾訾に接するようになりましたが、そのお人柄には益々惹か

れました。会議のあとの懇親会の席上、お國自慢の正調小原節を手拍子入りで唱われるのを拝聴したこともあります。しかも基督者である先生は酒杯を手にすることなく、その場の空気に合わせて大声放吟されるのでした。

教養部校舎が新設されてオープニングセレモニーを催した席で来賓祝辞をお述べ下さったのも先生です。最愛の妻信夫人が病を得られてからは、その診療を一切本学病院へお託しになりました。そして日本一親切な病院の看護ぶりに対し小原先生はじめ小原家の皆さんは心から感謝して下さいました。

こうした機縁に結ばれた小原先生から玉川大学出版部の図書205冊が寄贈されました。

人間が眞の人間となるために教育がなければなりません。小原先生は眞の教育を全人教育だと把握し実践されたのです。全人教育の眞髓はこの小原文庫の中から掬みとることができます。

小原先生と玉川大学の御厚意を永遠に伝えるために教養図書館に小原文庫を設置することに致しました。小原先生の心が、北里でも脉々と拡がり続けるならば、在天の先生の霊は如何ばかりかお喜びでありましょう。

玉川大学より寄贈された書籍目録

教育哲学	高山客男	フレーベル自叙伝 教育の弁明 岡本藤則訳
ヴァインデルバンド哲学概論	清水 清訳	教育学における人間的見方 ボルノー
哲学的教育学入門 ボルノー	浜田 秀訳	岡本英明訳
生の哲学 ボルノー	戸田春夫訳	対話への教育 ボルノー講演集 浜田 秀訳
愛の場所 教育哲学序説	三井 浩	西洋教育通史 皇 至 道
		西洋教育思想史 稲富栄次郎

労作教育思想史 小林澄兄
 日本勤労教育思想史 小林澄兄
 教育における伝統と創造 玖村敏雄

 デューイ 研究 日本デューイ学会
 ペスタロッツの生涯 玖村敏雄
 ペスタロッツを慕いて 小原国芳
 シュワイツァー〔増補改訂〕 高橋 功
 失意時代のペスタロッツ 人間と真実 伊藤忠好訳
 ペスタロッツにふさわしい妻 アンナ 志村秀志訳補

宗教教育論 小原国芳
 こどもと文化遺産 宗教学教育入門
 ソフィア・L・フェーズ著 新井 智訳
 リツプス 倫理学の根本問題 島田四郎訳
 全人教育論 小原国芳
 教育と人間の省察 ランゲフェルド 岡田渥美 訳
 和田修二
 続 教育と人間の省察 ランゲフェルド 岡田・和田訳

 生命の教育 三浦修吾
 道徳教育論 小原国芳
 玉川道徳教育講座 実際論 玉川大学教育研究所編

人間の道と心 戸川 尚
 創造力の美学 清水 清

 現代の教育革新 杉谷雅文
 日本教育制度の性格 皇 至 道
 理想の学校 小原国芳
 学校 その自由と権威 ジョン・ホルト著 山崎真穂訳

 人類の教師と国民の教師 皇 至 道
 教育者の道 シュブランガー 浜田正秀訳

師 道 小原国芳
 欧米学者の見た玉川教育 玉川出版部
 玉川のおやじ 諸星 洪
 小原教育 鯉坂二夫
 OLD MAN OBARA OF TAMAGAWA
 GAKUEN Hiroshi Moroboshi

 教授工学入門 沼野一男
 1人1人を生かす教育 前田浩一
 LLのためのプログラミング J・D・ターナー 編
 外国語教育の語学ラボテリ ー エドワード・スタック 著 西本三十二 監訳

追憶の波多野精一先生 小原国芳 編
 杉村克己
 人類愛の使徒 ウィリアム・ブース 山室武甫
 人道の戦士 山室単平 山室武甫
 山室単平にふさわしき妻 機 恵子 山室武甫
 偉人の母 小原国芳 編
 新教育の探究者 木下竹次 木下亀城 編
 小原国芳

 子ども その発達・保育と福祉 山下俊郎古稀記念 論文編集会
 精神薄弱児の行動形式 片岡義信編

ANTHROLOGISCHE PADAGOGIE
 Otto Friedrich Bollow
 ホモ・サピエンス?人類足跡考 岡村祐一
 西東詩話 日独文化交渉史の側面 富士川英郎
 評伝 北原白秋 藪田兼雄
 白秋詩歌一家言 藪田兼雄
 詩話百話 藪田義雄
 詠嘆の詩歌 木俣 修
 短歌実作指導教室 木俣 修
 短歌添則教室 木俣 修

ヨーロッパ公演旅行記 玉川大学欧州派遣 演劇舞踊団編

大和路 歴史教室	穂積重正	小原国芳全集	39. 教育講演行脚・身辺雑記 (10)	
私の剣道修行	佐藤貞雄	1. 教育の根本問題としての宗教	40. " " (11)	
南ギリシャを行く	岡田 陽	2. 教育改造論・自由教育論	43. 教育論文・教育随想 (8)	
		3. ベスタロッチを慕いて・教師道	44. 教育講演行脚・身辺雑記 (12)	
日本民族の心	高山岩男	5. 母のための教育学	45. " " (13)	
開国の精神	紀田順一郎	6. 世界教育行脚		
歌舞伎 虚と実	坂東三津五郎	7. 道德教授革新論	世界教育宝典	
歌舞伎 花と実	坂東三津五郎	8. 理想の学校・教育立国論・道德教育論	ベスタロッチ (1)	福島政雄訳
		9. 思想問題と教育・学校劇論	" (2)	"
逸話で綴る 極地探検家物語	近野不二男	10. 婦人問題と教育・結婚論・日本の女性の理想	" (3)	鯨坂二夫訳
逸話で綴る 科学技術者物語	玉川学園編	11. 秋吉台の聖者・本間先生・玉川塾の教育	" (4)	田尾一一訳
逸話で綴る 音楽家物語	武川寛海	12. 道德教授の実際 (1)	" (5)	"
ベートーヴェンを慕いて	小原国芳	13. " " (2)	フレーベル 人間の教育	小原国芳訳
結婚論	小原国芳	14. 塾生に告ぐ	シラー 美的教養論	清水 清訳
人間 このからだ 十代の性教育	岡田寅次	15. 教育論文・教育随想 (1)	スペンサー 教育論	岡本二三郎訳
		16. " " (2)	エレン・ケイ 児童の世紀	原田 実訳
例話 大全集	小原国芳編	17. " " (3)	ジョン・ロック 教育に関する考察	押村襄訳
真人のこことば	小原国芳編	18. " " (4)	ナトルプ 社会的教育学	篠原陽二訳
金言集	小原国芳編	19. " " (5)	フィヒテ ドイツ国民に告ぐ	富野敬邦訳 森 豊瑞
		20. " " (6)	デュウィー 民主主義と教育	帆足理一郎訳
世界新教育会議 報告書 世界教育日本協会		21. 教育講演行脚・身辺雑記 (1)	ルソー エミール	
		22. " " (2)		永杉喜輔・宮本文好・押村襄訳
Tamagawa New Encyclopedia		23. " " (3)	ヘルバルト 一般教育学	是常正美訳
	小原国芳監	24. " " (4)	シュブランガー 文化と教育	村井 実訳 長井和雄
Natural Science 玉川大学出版部編		25. " " (5)	コメニウス 大教授学	稲富栄次郎訳
玉川新百科		26. " " (6)	トルストイ 国民教育論	昇 曙夢訳
第1巻 数学		27. " " (7)	ゲーテ 教育州・詩と真実	堀内 明訳 浜田正秀
第2巻 物理1		28. 小原国芳自伝 (1)	カント 人間学・教育学	清水 清訳
第3巻 物理2		29. " (2)	プラトン パイドロス・リュシス・酒宴	
第4巻 化学1		31. (別巻)小原教育論		三井 浩・金松賢諒訳
第5巻 化学2		32. (")人間小原論	ケルシエンシュタイナー 労作学校の概念	
第6巻 天文・気象		33. 全人教育論・宗教教育論・師道		小林澄兄・東岸克好訳
第7巻 地球・海洋・地質・鉱物		35. カンジンスキー芸術論	ベスタロッチ (6) 探究	虎竹正之訳
第8巻 生物学		36. 教育論文・教育随想 (7)	シュライエルマッヘル 教育学講義	
第9巻 動物		37. 教育講演行脚・身辺雑記 (8)		長井和雄・西村 皓訳
第10巻 植物		38. " " (9)	ボルノー 人間学的教育学	浜田正秀訳

世界教育宝典(日本教育論)

中江藤樹・熊澤蕃山集 小出哲夫解説

木村光徳・林秀一校註

二宮尊徳・大原幽学集 下程勇吉・久木幸男校註

藤田東湖・山崎闇齋集 小林健三校註

山鹿素行・吉田松陰集 村上敏治・玖村敏雄校註

石田梅岩・手島堵庵集 佐藤清太・縄田二郎校註

本居宣長・平田篤胤集 岸本芳雄校註

貝原益軒・室鳩巢集 石川松太郎校註

世界教育宝典

中国教育宝典(上) 編集 加藤 常賢

〃 (下) 〃 〃

世界教育宝典 仏教教育宝典

道元・臨済禅家集 水野弘元・平田高士編

聖徳太子・南都仏教編 出口常順・平岡定海編

法然・親鸞・日蓮集

塚本善隆・早島鏡正・茂田井教享編

伝教大師・弘法大師集 塩入亮忠・中野義照編

世界教育宝典(キリスト教教育編)

I 聖書 浅野順一・高柳伊三郎編

III アンセルムス、トマス・アクィナス、ボナベントゥラ 印具 徹編

IV ルター、ツウィングリ、カルヴィン 小平尚道編

V シュペーナ、トレルチ、ブルンナー他 佐藤敏夫編

日本新教育百年史

1. 総説(思想人物) 小原國芳編

2. 〃 (学校) 〃 〃

3. 北海道・東北 〃 〃

4. 関 東 〃 〃

5. 中 部 〃 〃

6. 近 幾

小原國芳 編

7. 中国・四国

〃 〃

8. 九州・沖縄

〃 〃

フレーベル全集

1. 教育の弁明 小原國芳・荘司雅子

2. 〃 〃 〃

深田康算全集

1. 深田康算

2. 〃

3. 〃

玉川教育新書

フレーベルの生涯と思想 荘司雅子

デューイの教育学 鯉坂二夫

ヘルバルトの哲学と教育学 稲富栄次郎

世界新教育史 ローソン、ボイド

ソクラテスの思想と教育 村井 実

教育の名著

学習各論(上) 木下竹次

〃 (下) 〃

欧洲教育思想史(上) 篠原助市

〃 〃 (下) 〃

日本庶民教育史 石川 謙

新教育講義 谷本 富

文芸教育論 片山 伸

国語の力 垣内松三

綴り方教授法 綴り方教授に関する教師の修養 蘆田恵之助

数学教育の根本問題 小倉金之助

自発性の原理の展開 佐藤熊治郎

八大教育主張 小原國芳 他

学校教育論 三浦修吾

教育思潮大観 中島半次郎

女子教育 下田次郎

青木 きよし

絵本、お伽噺、ポンチ絵、豆本、少年文庫…
 いろいろ変遷、濃淡はあったが、本との付き合いは随分長い。然し読んだ本の範囲も、数も多寡が知れているし、その上、じっくりと噛み締め乍ら読んだという想出も殆んどないような気がする。斜読み、飛ばし読みはては途中で投げ出すといったやりかたで、漫然と筋を追うような不真面目な乱読一筋、読んでいる時は唯、面白かったというだけである。今誰かに開き直って「長い間の読書を通して何を得たか？」と聞かれれば「さて」と首を傾けざるを得ない程、霞の彼方に何かモヤモヤしたものが、かすかに見える程度に過ぎない。少しは真面目に読んだものもあつたらな、と今になって愚痴も出る、何とも情けない始末である。直接仕事に関する本については又別である。これは必要に迫まれ、待たなしという状況の下で、活字に追いかけられ通しであったが、これには一種のコツがあって、精、粗と適当に振り分けたりして、馴れれば何とかなるものである。然し生来ものぐさの私は辞書から逃げ廻っていた為、半分は想像でゴマカス読み方がいつとはなしに、すっかり身について了っているの、商売以外のものにぶつかると持病の外国語恐怖症が暴発することが時折りある。

いつの間にか読む速度が落ちたことを自覚するようになってから大分たつが、ここ二～三年我乍ら驚く程、遅くなってしまった。これは老化による反射速度の低下、脳細胞の減少に由来する極めて当り前のことであり、我身にも老いが順調に進んでいる証拠で、素直に喜ぶべきことなのであろう。そのうえ漢字制限以来カナ文字

の書き流しが多くなった為、漢字に馴れている吾々には一字一字拾わないと意味の汲みとれないことがよくある。このため余計遅くなる。ともあれゆっくり読まざるを得ないのである。然しよくしたもので、ゆっくり読んでいると、今までなら何気なく素通りして了ったようなことにまで気がついたり、文章に感心したり、ちょっと途中で考えさせられたり、といったことを無意識にやっていることに気がついた。こうなると老化もまんざら棄てたものではないと、見直したくなる。然しやがて老眼鏡だけではこと足りず天眼鏡の助けも借りなければならぬように、なるのは目に見えているけれど、かつては、ちょっとした付合いだったが、未だ心のどこかに、ひっかゝっている本のいくつかを探し出して、のんびりと読んでみたいと楽しみにしている。

幸い後、旬日のうちに、時間的に縛られることの少ない毎日が日曜日という境遇になるので、条件は申し分ない筈である。随分と無駄を重ね、齢七十にして初めて、本当の読書の楽しさが少し判りかけてきた、というのが今の私である。読書について語る資格など毛ほどもない、この私が恥を忍んでまでこのような文を綴ること自体、誠に妙な話したが、これも浮世の義理の柵の故か。

本 と 私

—推薦図書を中心に—

頼 谷 幸 男

内容の如何んを問わず一般的に読書の醍醐味は特定の目的を持たず興味の趣くまゝに読破してゆくところにあると思う。義務づけられた読書（勿論重要な事ではあるが）は苦痛であり、又興味も半減してしまうことはよく体験することである。このような勝手気儘な多読乱読こそ読書本来の姿であり、この喜びを最も純粋な私たちで謳歌出来るのも多感な青春時代の特権であらうと思う。5冊の推薦図書もこのような読書体験の中で自分なりに啓発され深い感興を与えられたものである。

万物の不思議な転身変形をうたう「転身物語」はギリシャ・ローマ神話伝説の一大蒐集であり、我々はこの中に古代人の人間臭い死生観を彷彿する事が出来るだろう。泉に映る自分の姿に恋焦れ遂には“水仙”に転生する美少年ナルキッソス物語をはじめ、この書は聖書と共にヨーロッパの文学芸術に多大な靈感を与えて来たのである。「トリスタンとイゾー物語」「中世騎士物語」はいづれも中世ヨーロッパの世俗的愛の原点をうたいあげている。前者は誤って飲んだ

恋の媚薬故に“愛することを愛する”宿命に陥り死に至るまでやむことのない若い二人の至純の愛—“情熱恋愛”—を主題とする悲恋物語。後者はアーサー王伝説の円卓の騎士を中心とした武勇談の中に咲く若い騎士と既婚の貴婦人との試練にみちた不倫の恋—“宮廷風恋愛”—をテーマとしたものである。この古典的愛の主調は以後ヨーロッパ文学の一貫した伝統としてジャン・コクトー作「悲恋」の現代に至るまで連面と続いているのである。「悪の華」は近代人の憂愁と理像の相剋をうたったものである。醜悪で奇異なものの中に美を透視するこの“悪魔主義”詩人が“超自然とイロニー”を文学の本質と見做す時、我々は「西脇詩」の中にその深いエコーが読みとれる。“詩は異質な概念を結合し新しい関係を発見する事”とする彼のシュールな詩風は難解とされ乍らもギリシャの清朗の世界をうたう「あんばるわりあ」、日本的情念の世界を描写する「旅人かえらず」は比較的理解しやすいものだろうと思う。

「渡り鳥と星」

天 野 卓 治

私は、現代日本の状況の中に生活している。政治の枠、法律の枠、道徳の枠、規則の枠、この限られた世界は、未熟児用の保育器のごとく、又、多摩自然動物園の柵のごとくであると感じています。いやおうなく、この限られた状況の下で生活し、考え、はみ出す事は許されてない。同時に、籠に飼われる鳥の様に外の世界で生き

る力は持っていないかも知れません。

現在の状況の多くは、歴史過程の中で構築されてきたものであり、この状況の外の世界、異なった価値観の世界は、過去には存在し、又、未来にも存在するはずです。そしてその世界は、現在の私にとっても、決して立入禁止の世界ではないはずです。私が、それらの世界を知る道

の一つは、過去の人々の考えを伝える書物です。書物の中では キリスト、仏陀、老子……の語る言葉を聞く事が出来ます。その言葉は、笹川良一、池田大作、巨泉、ジョン・レノン……友人、両親の語る言葉より、はるかに歴史の選択に耐え、より一般性をもって私に語りかけます。

正義と悪の問題も、恋愛、人間関係の問題も何千年の昔から考えられてきている。書物の中にしまわれた、それらの考えは、現在の私の周りの人々の知恵より、はるかに大きな、知恵で語

られている。現在を越えたより広い世界が、そこに開かれている様に思える。

私の現実生きる世界は、あまりにも狭く、接して言葉をかわす人々は少ない、考えを語り合える人は、さらに少ない。そして状況は、いやおうなく私をしばっている。しかし書物の中に語られた、知恵は、思想は、多摩自然動物園の夜空に光る北極星が、決して籠から飛び立つ事の出来ぬ渡り鳥にも彼の飛び立つべき方向を指し示すがごとく、私に進むべき方向がある事を示してくれるのです。



ひ と こ と

花の便りも聞かれて、もうすっかり春ですネ。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

年に3～4回、お知らせを載せて皆さんのお手もとに届きますので、

今日からこの「閲覧ニュース」と仲良しになって下さいネ。

夕方は、未だ未だ肌寒い頃です。油断をして、風邪をひいたりしないで、早く大学生活に融けこんで下さい。

